

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日

平成24年10月25日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	第4691400099号
法人名	輝北プレスウッド株式会社
事業所名	グループホームゆうきのなぎさ
所在地	鹿児島県垂水市二川945-1 (電話) 0994-36-2100
自己評価作成日	平成24年9月25日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号
訪問調査日	平成24年10月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

垂水の国道沿いにあるグループホームである。交通の便はいいが、周囲は高齢者が多く、地元の有力者も高齢化を嘆いている。ホームを運営しているが、近隣の方々はグループホームに期待する部分も大きい。特に夏祭りなどは、地元の夏祭りが消失し長く、ホームの手を借りたい等の話を聞いている。そのため、青年団・消防団・小学校等の力を借りて、地域の方々を招いて夏祭りを行っている。今回は桜島の夏祭りと同様に、参加者が以前より少なかったが、近隣の多くの方が参加されています。反省点等地元の意見も取りあげ、次回の運営に生かしていこうと思っている。また敬老会でも近隣の方々を招き、催し物の後、食事会等を行っている。在宅ケアに関して、相談を受ける場面もあり、ホームとして対応を行っている。運営推進会議でも、地域の方々を招き、地域の消防体制・ホームの運営体制等話し合っている。警察の駐在所員の方も良く来られ、近況等報告させていただき、防犯に対する注意点等指導を頂いている。このように、地元の方々とも関わりが多く、スタッフもホームが持つ地域密着の意味・活動を良く理解している。またケアとして、認知症状の理解・本人様の主体性を引き出すケアを実践している。家庭的な生活が送れるようにと思いいケアを行っている。周辺症状の悪化はなく、落ち着けるよう支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

国分方面から垂水につながる国道沿いに位置し、雄大な桜島と対岸の磯山が一望できる絶好のロケーションに建てられている。開設時より地域に密着したグループホーム運営を目指し、手探り状態で取り組んできた地域交流も地区行事が少ない地域の現状を把握してホームが発信地となり夏祭りや敬老会行事を地域とともに協働してできるようになっている。小学校の机・イス・テントを借りて地域の方々に設営の協力をもらいながら行っている大掛かりな夏祭りには地域の子どもたちや多くの方が訪れている。ホームの敬老会には地域の高齢者も招待して、保育園児やボランティアの出し物を楽しみ、弁当も準備して利用者と一緒に時間をすごしてもらっている。小学校との交流も盛んでともに行事で行き来したり、教員の研修の受け入れも行っている。1ユニットということもあり、利用者・家族・職員のコミュニケーションが図られており、面会も頻繁で家族が意見・要望を表しやすい関係が築かれていることが家族アンケートの評価でも伺われた。また、運営推進会議にも家族は交代で参加して毎回、充実した内容の話し合いが行われている。外出の機会も多く、運動会シーズンは地元の小学校・保育園に見学に出かけ、駅伝の応援やすぐ近くの道の駅・外食・弁当持参の花見・大型ショッピングセンターへの買い物など機会を作っては出かけられるように外出支援を行っている。

利用者の表情も明るく、テレビの話題でおしゃべりがはずみ活気のあるグループホームである。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念を3項目立て、ケア会議等また随時確認を行っている。地域密着活動を行っており、施設として地域に貢献できるように実践を行っている。	今年度、これまでの理念を更に具体化して新入職員にもすぐに理解してもらえるような分かりやすい内容に見直している。理念は朝のミーティング、職員会議で確認する機会を作り、理念に沿ったケアの実践に取り組んでいる。パンフレット、ホーム便りにも明記している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元小学校・保育園の慰問がある。また地元小学校教員の研修も受け入れ、入居者様を囲んでいる。夏祭り・敬老会と地元の方々を招き盛大に行っている。入居者様の地域との繋がりが得られるように支援している。	自治会に加入して職員が清掃活動に参加するなどして積極的に交流に努めている。地域的にも高齢化の進んだ地区であり、地区行事がないため、ホームが地域の発信拠点としての役割を担って夏祭り・敬老会は地域の方々を招待して盛大に行われている。また、夏祭りは小学校のイスや机・テントを借りてホームの敷地で舞台を作り地域の夏祭りのような盛り上がりを見せている。敬老会も毎回60食程の弁当を準備して地域の高齢者の方々にも楽しい時間をすごしてもらっている。今後は更に大掛かりな夏祭りの計画も地域と協働して話し合われている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	地元小学校の教員の研修の際は、認知症の理解・QOLの充実等、介護の基本的な考え方の教育、ケアの場面での指導など行っています。また地元の方で相談に訪れる時もあり、援助する場面もあります。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、市役所・地元の青年団・御家族・消防団等を招き検討を行っている。その際に出た議題等、ホーム内で反映し、検討を行っている。特に夏祭り・敬老会等の行事、避難・防災、ケアについて。	振興会長・民生委員・青年団長・消防団長・家族・利用者・行政等の幅広い参加者を得て2ヵ月に1回開催している。ホームの取り組み状況、災害時の避難体制、行事についての話し合いなど毎回、充実した内容で活発な意見交換が行われている。また、家族には交代で出席してもらっており、運営推進会議が定着している。	

鹿児島県 グループホームゆうきのなぎさ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議・定期報告を含み行っている。特に運営推進会議では、現状報告、利用者様の状態を含み、改善点等の助言を頂いているが、現在、ホームの運営に改善を促す事がないです。	市の担当者とは日頃より、連携を図り、協力関係を築くように努めている。また、地元小学校教員の研修の受け入れも行っている。市役所より高齢のお祝いに訪れる機会もある。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の必要な方は現時点ではないが、身体拘束について、会議を開き勉強会等行っている。また研修があれば、スタッフ等参加し、その内容等、ケア会議等で取りあげている。身体拘束が必要な方がいれば、家族に了解をまず得ることを、家族に説明を行っている。	重要事項説明書・運営規定に拘束について明記しており、ホームの方針として身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。職員は薬のリスクも正しく理解しており、安易な使用はしないケアに取り組んでいる。日中は施錠などせずに職員間の連携で安全で自由な暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待については、研修があれば参加し、また会議の中で取りあげて勉強を行っている。言葉の虐待が見過ごされ易いことをスタッフ全員了解しており、言葉かけについて、常に検討を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護について、勉強会等開いています。また御家族に、制度について説明する場面があります。社協を利用していた利用者様もいらっしゃいます。		

鹿児島県 グループホームゆうきのなぎさ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時、また入所時前より説明等行っています。また事前に入居者様同伴で見学をされることもあります。契約時に十分に説明・納得されるように時間を設けています。また退去時も同様です。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が来訪された時、意見や助言を受けられるよう機会を設けている。また御家族様とホームと信頼関係を築けるようにしている。現在、苦情・不満点は聞かれていない。地元の意見等も運営推進会議以外でも募っており、運営に反映している。	家族アンケートでも日常的に家族が意見・要望を表しやすい関係が築かれていることが伺われる。ほとんどの家族が日常の面会時に意見・要望を表してくれることが多く、運営推進会議も家族は交代で参加する体制が築かれている。また、重要事項説明書に第三者委員も明記されて外部者へ表せる機会を設けている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ケア会議・職員会議等で、スタッフから意見を汲み取れるよう常に行っている。スタッフ一人一人、良い意見・視点を持っており、運営に関し、スタッフの意見を貴重に扱っている。	毎月、全員参加のケア会議・職員会議を行っており、職員からは活発な意見・提案が出され、出された意見・提案については可能な限り実現に向けて取り組んでいる。また、職員個々に役割（身体拘束・虐待・勉強会・レクリエーション・食事・リスク・畑）を持たせ、職員育成にも取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ホームで、夜勤者以外になるが、飲み会等がある。また管理者とスタッフが良い関係作りが行えるよう工夫している。家庭での役割上、勤務に影響がある場面もあるが、出来る限り勤務表に反映をしている。		

鹿児島県 グループホームゆうきのなぎさ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会、資格取得の援助等、行っている。研修に関して、書面での報告をする事になっており、研修により得たことなど、話し合う場面もある。特に基礎的な研修等、若手スタッフが参加出来るようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の研修・講習会など、ホームスタッフが全員が1度は参加できるようにしている。そのために、勤務表の調整等行っている。地域の介護職員と交流する機会が増えるよう工夫している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前から入所後まで、利用者様と御家族と話し合いを行っています。希望するケアなど。その内容、継看連絡などスタッフに会議・申し送りを通じて情報として共有している。入所してスタッフは会話・傾聴を行い、信頼できる関係作りを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談、入所申し込み、入所に至る過程で、御家族より不安・要望・ケアの方針等聞き取りを行っている。入所後は、電話・面会等で、心身面・生活面の状態の説明を行い了解を得ている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談される内容により、サービスの内容等検討を行っている。また介護保険内・外のサービスについても御家族様と検討を行う場面もある。社協に金銭管理のサービスを受けた事例もある。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人様の主体性を擁護し、本人様が主体性を発揮できるようにするのが、ホームの方針でありスタッフに指導している。本人様の認知症状の理解をスタッフと共有をしている。また近隣と行事を行い、地域との関係が継続できるように支援している。		

鹿児島県 グループホームゆうきのなぎさ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族の協力を得られる方には、精神的な援助を依頼することがある。夏祭り・敬老会等の行事に御家族と交流する場面を設けている。また地域を絡め、昔からの関係が継続できるように支援している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔馴染みの方の面会など制限することなく出来るだけ行えるよう誘う場面がある。関係が絶たない支援を行っている。また近隣を絡めた行事を行い、関係が続けるように支援している。	本人の希望による帰宅や墓参り、なじみの店での買い物など支援している。また、地元出身の利用者も多く、頻繁に友人知人の訪問もある。ホーム自体地域との交流が盛んなため、利用者も日常的になじみの人や場との関係が継続されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係性が保てるように、環境面の調整を行っている。またレクなど関係性が深くなるプログラムもある。ホール等に談話できる場所がある。利用者様同士の相性もある為、座る位置など調整している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院から退所まで絶え間ない支援を行った事例がある。退所時等、退所後の施設と継看連絡等を行い、御家族とも連携をとっている。また退去後に面会等を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様のニーズを捉え、ニーズに対してケアが行えるように支援している。ケア会議等、一人一人の入居者様に対して検討を行い、ケアの方針を立て、共有している。	全員が自分の思いや意見を会話で表せるため、日常の会話やレクリエーションの中から思いを引き出すように職員は心がけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、御家族・本人様から過去生・生活状況等、聞き取り、ケアに反映している。入居前からの生活が継続し、精神的に落ち着けるように支援しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人様ができること・出来ないことを見極めケアを行っている。出来ないことでも、アセスメントを行い、本人様の力を引き出せるように支援を行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当会議、ケア会議等を元に現状に即したケアプランを立案している。ケアプランはスタッフ全員で確認を行っている。モニタリングもスタッフと行うこともあり、次回のケアプランの立案に生かしている。	入居時に本人・家族の希望を聞いて本人がより良く生活できるように、家族、職員、主治医の意見を反映させて個々に応じた介護計画を作成している。本人の楽しみでもある喫煙についてもストレス軽減につながるように健康に留意し継続できるように支援している。入退院や変化があれば都度見直しを行い、変化が見られなくても毎月のモニタリングと3ヵ月ごとに定期的な見直しを行って現状に即した介護計画を作成している。	

鹿児島県 グループホームゆうきのなぎさ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	経過記録は入居者様の健康状態・皮膚状態等、細かく取っている。また記録に関して、指導を行っている。個別の記録の重要性をスタッフは理解しており、客観的な事実を残し、誰が見ても理解できる記録作りを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ホームに籠らない生活を支援している。外食・遠足・ドライブ・買い出し等。保育園・小学校の慰問等の依頼、行事等の取り組みにより、地域と関係が続けるように支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議から地域の意見をくみ上げ、その意見を行事等に反映している。地域の運動会・ホームの行事等、入居者様の力を発揮しやすくなる環境調整を行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームのかかりつけ医の往診が2週間置きにある。御家族・本人様の意向によっては、かかりつけ医の検討を行っています。また緊急時、特変時などDr.の協力をすぐに得られる体制を整えています。	本人、家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。協力医療機関とは24時間連携が図られて、定期的な往診もあり利用者の健康管理が密に行われている。	

鹿児島県 グループホームゆうきのなぎさ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ医のNsと入居者様の心身面・生活面の状態等の情報を共有しています。特変時の連携も随時行っています。報告・連絡・相談を常に行い、かかりつけ医・Nsと連携をとっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は、病棟婦長、病院ケアマネ、担当医と経看連絡、他連携を図っている。最近では、御家族の金銭管理の件で、入院時の病院の婦長・担当医と協議を行っている。また他病院のケアマネ・相談員と調整・連携を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアは、以前に行おうとした矢先に病院で亡くなる事例があった。現在はターミナルケアの検討を行っている最中である。入所説明時に御家族には、ターミナルケアは現時点では行えない事を伝え、了解を得たうえで入所されている。	重度化や終末期に向けたホームの方針は入居時に口頭で説明して家族の希望についても聞きとり、記録している。入居後は身体状況に応じて医師の指示のもと家族と話し合い、ホームで出来る最大限の支援に取り組んでいる。ターミナルケアについてまだホームの方針が定まっておらず、今後の課題でもある。	利用者の高齢化に伴ってホームの方針を明確にすることが家族の安心にも繋がることを理解して現状のホームの体制や職員の力量を見極めたホームの方針を定め、共有できるように今後の取り組みに期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDを施設内に設置している。緊急時に1度使用したことがある。消防署の協力で年2回の防災訓練時にAED、心肺蘇生訓練を行い、普通救命講習終了書を頂いている。		

鹿児島県 グループホームゆうきのなぎさ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	去年・一昨年と水害の危険性があるため、2度避難した経緯がある。避難に対してスタッフの理解、地域・消防署・市との協力体制が築けている。今年は避難を行う状況なく、落ち着いている。	年2回、昼夜間想定で避難訓練を行っている。運営推進会議に消防団長の参加もあり、近隣住民の参加も得られている。スプリンクラー・自動通報システムも設置されている。桜島噴火に伴う津波想定での避難訓練も行っており、数日分の備蓄も確保されている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人様を尊重したコミュニケーション、ケアを行っている。入浴・排泄時等の声かけの仕方・プライバシーの確保等。ケア会議等で、本人様に即したケアの実践の検討など行っている。	申し送り時や職員会議の際に機会を捉えては話をして職員の資質向上に向けて取り組んでいる。特に入浴・排泄時の声かけや対応については人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねないように配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その人らしさ、その人のペースを守りながら暮らせるように支援を行っています。自己決定が出来るように関わりを持っている。スタッフには認知症を理解する教育を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床・入床・入浴・食事などの時間は、本人様の意向を尊重し行っている。自己決定を促し、本人様の残存能力を引き出せるように支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	洗顔、入浴・更衣など、本人様の満足できるように支援している。服装は、愛着がある昔からの服など持ちこんでいただけるように支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	庭に、季節の野菜を植え、収穫から調理し食卓まで乗せ、その時の食事が興味強くなるよう支援している。また地元の魚など調理・提供し、それを見た入居者様同士で、昔話することもある。	利用者から家庭菜園のアドバイスをもらいながら収穫を楽しみ、季節を感じることができるよう支援している。外食や弁当持参の花見に出かけたり、ときにはテラスでお茶の時間を過ごすなど趣向を凝らして「食」が楽しめるように支援している。気候のいいときには釣りを楽しんで食卓に並ぶこともある。	

鹿児島県 グループホームゆうきのなぎさ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひとり の状態や力、習慣に応じた支援をしてい る	食事摂取量・水分摂取量は日々 チェックしている。水分は苦手 の方もいるが、様々な形態・種 類を変え、1日で1500ml程度無 理なく摂取できるように支援し ている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないよう、 毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の 力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実践してい る。夕食後は、義歯を薬剤につ け洗浄している。入れ歯の作 成・調整で歯科受診を利用してい る。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、 一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣 を活かして、トイレでの排泄や排泄の自 立に向けた支援を行っている	排尿・排便チェックを毎日行っ ている。その結果、リハPから 布Pへ切り替えられた方もい る。また夜間帯のみリハPの方 もいる。出来る限り快適に過ご せる支援を行っている。	個々の排せつパターンを把握するた め、排せつチェック表を工夫してトイ レでの排せつを支援している。ホーム 内にトイレが5か所あり特定の場所が 決まっている利用者もおり、自立に向 けた環境が整っている。現在布パンツ で自立している利用者も多く、維持で きるように支援している。また、入居 後に改善された利用者も多く、家族の 負担軽減や本人の喜び、職員のやりが いに繋がっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲 食物の工夫や運動への働きかけ等、個々 に応じた予防に取り組んでいる	下剤に頼らないように、水分摂 取・食事摂取・食材の選定・レ クなどの運動を取り入れている。 自然排便が難しい方もお り、かかりつけ医に相談し、指 示を受けている。		

鹿児島県 グループホームゆうきのなぎさ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴は本人様の意向を聞き行っています。声かけするタイミングを図り、本人様が入りたいと思える時に入浴を行っている。入浴に対し強い拒否感を持つ方もいるが、週に4度全身入浴を行えている。	基本的には一日おきを目安としているが個々の身体状況や希望に沿って柔軟に支援している。ときには、足湯に出かけることもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、夜間睡眠に支障が出ない程度に午睡を行えるように支援している。また日中・夜間帯通して室温の調整を行い、不快感がないように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報はかかりつけ医から提供されている。いつでもスタッフが確認できるように管理している。また追加薬剤などの情報も随時追加している。またかかりつけ医に処方方法・注意点の聞き取りを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	女性の入居者様は、家事活動に強い関心を持っている。その中でも洗濯たたみ等は、自然に行い始めることもあり、習慣化している。また在宅から仏壇を持ちこみ、熱心にお祈りされる方もいます。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホームに籠らないように、外食・ショッピング・ドライブ等行っています。園芸活動により野菜の収穫等、行事による地元との交流もある。墓参り等、家族に依頼することもあります。お盆・正月は帰省出来るように家族と相談することもある。	日常的には散歩・買い物・畑仕事など出来るだけホームに閉じこもらない生活を支援している。また毎月、外食・ドライブ・大型ショッピングセンターへの買い物・季節の花見・地域行事見学などを計画していろいろなところに出かけてホーム内に閉じこもらない生活を支援している。	

鹿児島県 グループホームゆうきのなぎさ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人様所有の財布に金銭が入っていないと不安な方がいます。御家族との話し合いの結果、少額ならということで、本人様が管理されている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	御家族から電話があり、御家族が希望されれば、入居者様と会話ができるように調整しています。また遠方の御家族には、スタッフより生活面・心身面の状態の報告を行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール・廊下・居室など、目につきやすい所に、手作りのクラフトなどを貼りつけている。特定の掲示板等、毎月変える個所もあり、季節感が得られるようにしている。また日差しが強く指す窓には、グリーンカーテンを使っている。	共用空間は広々としており、たたみの和室部分と南側の日当たりのいい場所にはソファのコーナーがあり、家庭的で居心地良く過ごせるように配慮されている。ウッドデッキにリビングから直接出ることが出来るので開放感がある。窓も大きく作られ、採光も良くリビングから眺められる桜島は地元出身の利用者にとって日常的な景観であり、落ち着ける景色である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールに、ソファ・畳み部屋などを用意し、入居者様のその時の気分・体調に合った場所で過ごせるように支援している。テーブル位置・席など、入居者様同士の関係性を考慮しており、席で談笑される場面も見られる。		

鹿児島県 グループホームゆうきのなぎさ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	昔馴染みの物を出来るだけ持ち込んでいただけるように、入所時の説明で御家族に伝えている。仏壇を持ちこまれた方もいます。	タンス・ソファ・テーブル・テレビ・仏壇・布団・家族の写真や飾り物など家族の協力をもらいながら個別性のある居室造りがなされている。また、各居室に洗面台があり、整容の自立に向けた環境も整っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーであり、ドアは引き戸である。手すり等も設置し、居室内・廊下で車椅子等使用できるよう十分なスペースがある。自分で移動したい時に、サポートできる環境調整をしている。またトイレ等外から視認できるようにしている。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

鹿児島県 グループホームゆうきのなぎさ

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

鹿児島県 グループホームゆうきのなぎさ

66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない